

白いてんとう虫

ガラスブロックシリーズNo.3

設計：山下保博／アトリエ・天工人

H&H



左—東面全景 内部の明かりが外部に漏れる夕景
右—南面外観 正面の階段を上ると玄関。ガラスブロックとタイルサイズを合わせ、目地を通して



2階へ上がる階段 昼間はガラスブロックから外部の光を採り入れる

リビング ハイサイドライトにより効果的な採光と空への抜けを確保している



光る白いてんとう虫

山下保博

YASUHIRO YAMASHITA

敷地は渋谷駅から徒歩12分ほど離れた山手線内にある住宅地の一画である。好立地であるため地価は高く、そこで住宅の計画を始めた初期段階でクライアントと決めたキーワードが「リセールバリュー」である。それは5～10年後に転売する可能性があること、その時に住居ではなく多用途に変更可能なことが条件であった。

今回のケースは私たちが設計を行っている中でも異例ではあったが、2006年をピークに人口が減少していることと、敷地の場所性からいずれ再開発があるかもしれないことも視野に入れた面白いキーワードだと言える。そのキーワードを解決するために大きく3つのことを行った。

- ①地下の両サイドにドライエリアをとり、転売時の増築スペースとした。
- ②建物全体を北側に寄せ、南側にオープンスペースを確保した。そのオープンスペースには縦列駐車で2台分を確保し、車庫の1台を含め計3台の駐車を可能とした。
- ③外壁の経年変化を起きにくくするため、外壁タイルの表面に「マイクロガード加工」(INAX)をした。さらに建物と一体に見せた樋をつくり、雨垂れによる汚れを防いでいる。

また当初、決定した素材、ガラスブロックユニットパネル(日本硝子建材)を用いて新たな展開を試みた。壁厚とガラスブロックを同厚の95mmにすることを必然的に考え、構造家の佐藤淳氏に相談し、見込40×125mmの鋼管を工場パネル化し現場で組み立てる新しい構法を生み出した。パネルジョイント部は角度を自由に換えられるように工夫して多面体に対応させた。開口部はアルミサッシとFRPの合わせに、網戸を既製品から多少、手を加えたことで95mm以内に抑えられた。

左—2階トイレ FRP面からの柔らかな採光を造作家具に組み込んでいる
右—サニタリー 外壁同様ガラスブロックに合わせて150角タイルとしている



また、INAXの協力のもと外壁タイル寸法を145×145mmで特注し、ガラスブロックと外壁タイルのすべての目地を通すことでそれぞれの差異をなくした。

これらの方法が相互作用し、壁と開口が同列な存在となり、境界を曖昧にすることが可能になった。

バスルームの壁は外壁同様150角タイルとし、床は「サーモタイル」としている。脱衣室を仕切るガラス間仕切りを、人造大理石のカウンターのポリウムが貫通している。

各階のトイレはすべて「サティス」を使用。それぞれ異なる空間の広さと形態に合わせ、光の採り入れ方や手洗いカウンターの形状や素材を変えている。

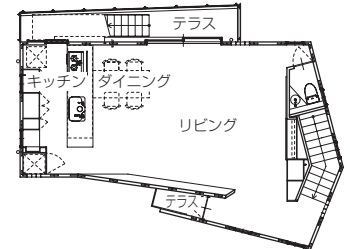
昼間はタイルとガラスブロックが同じテクスチャに見えるが、夜にはさまざまな点が光り出し、まるで光る“てんとう虫”に見えることで、この名前が付けられた。*

やました・やすひろ—アトリエ: 天工人/1960年生まれ。1986年、芝浦工業大学大学院工学研究科建設工学修士課程修了。齋藤裕建築研究所、PANOM、近藤春司建築事務所で勤務。1991年、山下海建築研究所設立。1995年、アトリエ・天工人に改称。1999～2007年、芝浦工業大学非常勤講師。現在、東京大学大学院・東京理科大学非常勤講師。主な作品: ペンギン・ハウス(2002)、セル・ブリック(2004)、JYU-BAKO(2004)、aLuminum-House(2005)、チカニウマルコウブツ(2006)、Twin-Bricks(2008)など。

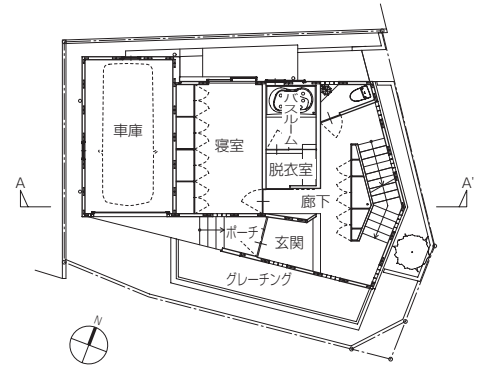
■建築概要

名称: 白いてんとう虫
—ガラスブロックシリーズNo.3
所在地: 東京都渋谷区
家族構成: 夫婦
敷地面積: 106.60m²
建築面積: 58.61m²
延床面積: 171.68m²
規模: 地下1階、地上2階
構造: 鉄骨パネル造、一部RC造
工期: 2007.5～2008.3
設計: 山下保博+高田昌彦/アトリエ・天工人
施工: ホームビルダー

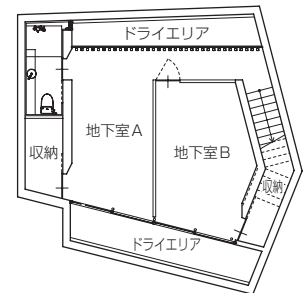
●INAX使用商品●外壁: スーパーホワイト150角(マイクロガード加工)、壁タイル: ミスティキラミック150角、インテリアモザイク雪華、床タイル: サーモタイル、便器: サティス



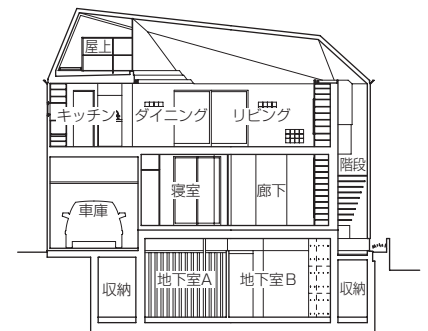
2階平面図



1階平面図



地階平面図 縮尺1/250



A-A' 断面図 縮尺1/250

JARDIN

設計：黒崎敏/APOLLO

H&H



リビングから中庭を見る この庭こそが家の中心軸であり、季節や時間、天候による日々の移ろいを生活に取り込む装置となる。独特の陰影を生み出すキャンティ階段は、さながらオブジェのようなものである



通り庭から玄関方向への眺め。両側にせり立つ壁面によって切り取られた空が、この空間に静寂をもたらす。奥行きをつくり出すアプローチは、いわば気分転換の装置でもある

開放的なダイニングキッチンに併設された奥行きのあるリビング空間。その上部には象徴的なトップライトを設え、中庭とは異なる柔らかな光が壁面に沿って降り注がれる



異なる4つの庭

黒崎 敏

SATOSHI KUROSAKI

左—南面全景 閉鎖的なファサードからは、木製格子戸を介して通り庭がかすかに見える程度で、内部の様子はほとんどうかがい知ることはいかない
 右—ガラスにより緩やかに分節されたサニタリー 玄関から連続する同じタイル素材で床が構成されることで、浴室、洗面室、トイレが一体となる空間が生み出されている



□コートハウス

緑があふれ、玉川上水が流れる東京有数の閑静な学園都市が今回の敷地である。これまでは湘南のテラスハウスで自然とともに過ごしてきた建主は、100坪ほどの新たな敷地でも同様の生活を望んでいた。その答えが平屋のコートハウスである。

敷地境界線に沿うように建てられた建築の外見は閉鎖的で、ともすれば環境に背を向けているようにも見える。ファサードの門扉から、かろうじて透けて見えるアプローチ空間を除いて、ほとんど内部の様子をうかがい知ることはいかない。実は、これらすべてが内外のギャップやコントラストを生み出す周到な仕掛けなのである。

□4つの空庭

住宅を構成する最大の要素は、大小異なる個性的な空庭の存在だ。シンプルな箱の中に周到に用意された4つの庭により、生活空間に四季や天候、昼夜による変化や移ろいをもたらしている。

1つ目の庭は、南北につながるエントランスポーチを兼ねた、いわゆる“通り庭”である。前面道路から連続する、ストライプ柄でチャコールグレーのタイル敷きの空間は、透明ガラスで軽やかに覆われた玄関内部へとつながる中間領域となり、空間を引き締めている。上部には

トップライトが連続的に配置され、両側にそびえるRC壁がドラマティックな空を切り取る仕掛けだ。

2つ目は、シンボルツリーのヒメシャラが特徴的な“中庭”。寝室や生活空間が、芝生敷きの中庭をぐるりと取り囲むように配置され、オブジェのように跳ね出した屋上階段が、日時計さながらの美しい影を落としている。また、中庭に沿って連続する大きな開口部が、プライベートな空庭を存分に楽しませてくれるのは、プライバシーの問題を解決してくれる東壁面のおかげである。加えて、東南面の生活空間は、断熱ガラスとダイレクトゲイン効果により温熱環境にも優れており、中庭効果が十分に発揮されている仕様だと言える。

3つ目は浴室から連続するタイル敷きの“バスコート”。最南端に設けた客間に挟まれた小さな坪庭は、通り庭と同様のチャコールグレーのタイルとすることで空間を引き締め、水にぬれた時の独特の雰囲気も楽しめる。玄関や通り庭とはガラス張りで連続しており、独特の世界感のあるマイクロコスモスである。

4つ目は“屋上庭園”。ソーラーパネルを搭載した陸屋根には外断熱が施され、芝生や家庭菜園などができる仕掛けも用意。オール電化も含め、強くエコを意識した結果である。

□母屋と離れ

4つの空庭を介して生まれる空間は、いわば“母屋”と“離れ”の関係と言える。

例えば、玄関横の“通り庭”は、生活空間、水まわり空間と寝室の結び目のような位置であり、精神的な切り替えを行う余白だ。これは、平屋やワンルーム空間のような極めて単調な空間においては必要条件となる、言うならばスイッチのような役割である。また、“バスコート”を介した浴室と客間の関係も同様に、部屋付きの露天風呂の趣を出している。

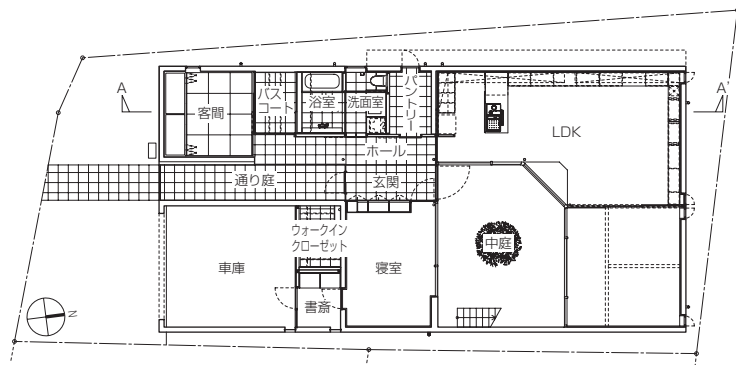
メインの“中庭”では、寝室、生活空間、子供部屋が同時に面することで、対の空間を味わえるのがコートハウスならではの構成であろう。自然や家族の気配を感じながら、四季を通して豊かな光のパリエーションと存分に戯れる。これぞ平屋の醍醐味に他ならない。*

くろさき・さとし—建築家/1970年生まれ。1994年、明治大学理工学部建築学科卒業。FORME一級建築士事務所主任技師を経て、2000年、APOLLO一級建築士事務所設立。国内外で建築活動を行う。現在、日本大学理工学部非常勤講師。主な作品：SEVEN (2001)、SWITCH (2006)、REF (2007)、ATOM (2008)、TEPE (2009) など。著書：「可笑しな家—世界中の奇妙な家・ふしぎな家60軒」(二見書房 2008)。

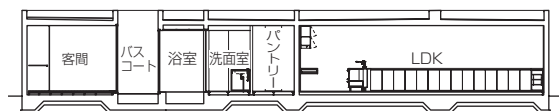
■建築概要

名称：JARDIN
 所在地：東京都小平市
 家族構成：夫婦
 敷地面積：330.86㎡
 建築面積：127.53㎡
 延床面積：126.04㎡
 規模：地上1階
 構造：RC造
 工期：2008.2～2008.7
 設計：黒崎敏/APOLLO
 施工：前川建設

●INAX使用商品 ●床タイル：ラフィリス IPF-400/RFR-12、便器：サティス



1階平面図 縮尺1/300



A-A' 断面図 縮尺1/300